

研究課題 (テーマ)	富山県内の未就学児を持つ就労女性のメンタルヘルスに関する調査		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	浜多美奈子	助教	研究の構想, デザイン, データ収集・分析, 論文作成
	田中いずみ 杉山由香里 遠田大輔	教授 講師 助教	研究遂行におけるスーパーバイズ 研究プロセスへの助言, データ分析 研究プロセスへの助言, データ収集・分析
研究結果の概要			
<p>未就学児を持ち働く母親の育児と就労によるストレスとメンタルヘルスについて明らかにすることを目的とし、富山県内にある保育所に協力を依頼し、同意の得られた 6 施設において、未就学児を持ち働く母親を対象に自記式質問紙調査を行った。調査は 2022 年 1 月～同年 2 月に実施した。精神的健康 (GHQ12)、職業性ストレス (BJSQ)、育児ストレス (PSI-SF)、母親の属性、家族・家庭状況、就労状況、職場・家庭からのサポートの有無などについて調査し、統計学的に分析した。</p> <p>未就学児を持ち働く母親 770 名を対象に調査票を配布し、有効回答 325 名を分析した (有効回答率 (42.2%)。母親の年齢は平均 36.2 ± 5.2 歳で、子どもの人数は 2 人が 53.8% と多かった。家事時間は平日平均 3.4 ± 2.3 時間、休日 5.1 ± 3.6 時間、育児時間は平日が平均 5.9 ± 4.5 時間、休日 12.0 ± 5.1 時間であった。職種は事務職が 30.2% と多かった。勤務形態は常勤が 42.5%、非常勤が 30.8% と多かった。1 週間の平均労働時間は 34.3 ± 9.7 時間であった。</p> <p>GHQ12 の合計得点は平均 25.5 ± 5.3 点、BJSQ の合計得点は 40.3 ± 12.3 点であった。PSI-SF の合計得点は 44.6 ± 10.1 点であり、PSI-SF 下位尺度では[子どもの側面]21.6 ± 5.2 点、[親の側面]22.9 ± 6.5 点であった。</p> <p>GHQ12 と他の調査項目 (BJSQ、PSI-SF、家族・家庭状況、就労状況、家庭・職場からのサポート) との関連を調べた結果、GHQ12 総得点と BJSQ 総得点 ($r=.340$) および PSI-SF[子どもの側面] ($r=.254$)、PSI-SF[親の側面] ($r=.556$)、PSI-SF 総得点 ($r=..495$) との間に正の相関が認められた ($p<.01$)。また家事負担感が大きいほど精神的健康度が低く、家庭・職場からのサポートがあると答えた母親ほど精神的健康度が高いことが示された。</p> <p>本研究より、未就学児を持ち働く母親の精神的健康は、育児と就労によるストレス、なかでも親自身に関する育児ストレスと関連すること、また育児へのサポートの有無と関連することが明らかとなった。未就学児を持ち働く母親の精神的健康の向上には、母親自身や母親が置かれている育児や家事状況への支援、家庭および職場からのサポートが重要であると考えられる。今後は具体的な支援について検討していく必要がある。</p> <p>本調査にご協力いただきました保育施設関係者の皆様に深く感謝申し上げます。</p>			
今後の展開			
<p>本研究の研究結果を国内学会にて発表し、論文を投稿予定である。</p> <p>今回は就労している母親のみを対象としたが、就業していない母親からもデータ収集し比較検討を行い、母親の就業状況に合わせたメンタルヘルス支援を検討していきたい。</p>			